

大学院生シンポジウム GS01

循環器疾患に関連した新規病態制御メカニズム —心血管疾患をターゲットとした薬学基礎研究の現状と治療への展望—

Novel Regulatory Mechanisms of Cardiovascular Diseases

鈴木 秀敏^{1,2}, 熊谷 渉平³, 渡 健治⁴

¹静岡県大院薬, ²京都医療センター, ³阪大院薬, ⁴九大院薬

近年我が国において、食生活の欧米化や高齢化社会の進展に伴い、心血管疾患患者数は年々増加している。また、心不全は心筋梗塞や心筋症などのあらゆる心血管疾患の終末像であり、既存の治療法を用いてもその予後は極めて不良なため、新たな治療法の開発が急務である。心血管疾患では、心筋細胞の肥大や機能不全、間質の線維化、炎症反応など様々な病理学的変化が観察される。これらの変化が心血管疾患への進行に密接に関わることは知られているが、詳細な制御メカニズムや協調的な役割についてなど未だ不明な点が多い。そのため、心血管疾患への進行過程における様々な病理学的変化を分子レベルで解明することは、新規治療ターゲットの創出につながると考えられる。

本シンポジウムでは、循環器研究に取り組む大学院生らが、炎症反応や心筋細胞肥大などの心不全病態の形成に関わる機構や血液循環障害の発症機序について、未知の分子メカニズムの解明を目指した最新の知見を紹介する。さらに、それら研究成果を基に心血管疾患の本態を追究し、心血管疾患治療への応用の可能性についても議論する。また、6年制への移行に伴い次世代の循環器研究を担う研究者が増加している薬学部において、この分野の研究・教育を発展させる面からも、本シンポジウム開催の意義を見出している。